令和５年３月３日　　所　　報　　第１７１号

所　報

氷見市教育総合センター
〒935-0016 氷見市本町４－９
（氷見市教育文化センター内）
TEL　0766-74-8220（代）
FAX　0766-72-8122
e-mail　kyouikukenkyu@city.himi.lg.jp
ホムページ　http://www.city.himi.toyama.jp/hp/departmentTop/kyouiku-i/kyouikukenkyu

「言葉」へのこだわり

氷見市小学校長会　会長
氷見市立窪小学校　校長　矢谷　義一

教職経験を振り返って「所報」に何を書き留めようかと考えたとき、遅々として筆が進まず頭を抱えてしまいました。その理由は、この「所報」を手にする方々に、説得力のある文章を書かなくてはならないという虚栄心があるからだと気付きました。改めて自身を見つめ直したとき、教育観と言われるものを育みながら、それを表現したり伝えたりする術に、少しでも磨きをかけるために試行錯誤してきたことが、私にとって一つの試練でした。そこで、等身大の私の思いを「言葉」にこだわって記すことにしました。

教職についてから、数え切れない研修会や講演会に参加してきました。その中には、いつ、どこで耳にしたのかという記憶がなくても、誰が何を話されたか鮮明に覚えているものがあります。なぜ、長い時間が過ぎても記憶に残るのか。それは、その人の「言葉」に「力（説得力）」を感じたからだと思います。

教員には、主に「言葉」をもって教科指導や生徒指導等に当たることから、伝えたいことを十分に理解し、行動につなげてもらうために、その「言葉」に「力」が必要だと思います。保護者や同僚に対しても然り、いかに相手の心を揺さぶることができるかを意識して、自分の「言葉」で語ることを心がけています。

自分の「言葉」で語る際に、自身の教育観等を表現する手立てとして格言、名言、禅語等を引用してきました。それには先人の知恵が凝縮されており、物事の本質を鋭く突くことで相手の心をつかむとともに、自身の考え方の正当性を強め、重みを加えることができると経験から学んだからです。何を引用するかに個々の教育観等が自ずと表れ、それにより「言葉」に「力」が加わるかの判断は、やはり経験によるところが大きいと思います。その意味では、教員の世界だけではなく、様々な体験を積むことが必要だと思います。

伝えたい内容とは別に、20年ほど前、指導主事の職にあったとき、「な・ま・え」を口にするなと教わりました。「な」とは「〇〇だな～と思います」の「な」、「ま」「え」とは「ま～・え～」という無意味なつなぎ言葉のことです。「な・ま・え」を使うと誠実さや正直さの表れとして受け取られることもありますが、弱さやためらいの表れとして受け取られることもあります。指導主事という立場上、事実を正確に、端的に伝える必要があることからの助言と理解しました。それ以降、流暢に話すことを目指したのではなく、私の場合、「な・ま・え」が出るのは、相対する人に圧力を感じたときや自分の考えがまとまっていないときであることから、何かを暗記して話すだけということはやめ、内容をまとめて自分の言葉で語り、平常心で自己肯定感が高い状態を保つことを意識しました。

特に「な」の扱いは困ってしまいます。私が「な」を使うのは、前述の「断定」することに自信がなくためらってしまう以外に、「断定」すると、上から目線で物事を決めつけたように受け取られないかという、自分なりの逃げ道を「な」に求めるときです。「言い切る」ことは、時として勇気のいる判断が求められますが、言葉に力を込めるには大切な要素だと考えます。

一面的な思いを記して終えますが、「言葉」の重みを感じ、「言葉」を正しく使える子供を育てていくことも、これからの「超スマート社会」を生きていく上で大切なことではないか『な』と思います。教職経験を振り返れば、「言葉」の使い方で他に迷惑をかけることがあり、反省しきりです。もうすぐ、卒業証書授与式です。私にとって、最後の式辞を述べる機会となります。最後は、言葉に力を込めて卒業生への祝福を自分の言葉で語れるようにします。

令和４年度　調査研究事業報告

ＩＣＴ教育推進委員会

ＩＣＴを効果的に活用した授業づくりと教員の資質向上を目指して

湖南小学校　教頭　池田　充良

１　ＩＣＴを活用した授業づくり研修会の実施

プログラミング教育とＩＣＴ活用の推進を目指し、湖南小学校、十三中学校、西の杜学園において「ＩＣＴを活用した授業づくり研修会」を実施しました。小学校では、教科の学習にプログラミングを取り入れた授業、中学校においてはタブレットＰＣの共有機能を活用した授業が公開されました。授業後の協議会では、発達の段階に応じたプログラミング教育の在り方や、協働的な学びに関する活発な協議がなされました。

２　各学校におけるＩＣＴを活用した実践事例の掲載

各学校のＩＣＴ教育推進委員が中心となり、学校生活や授業の様々な場面でのＩＣＴ活用に取り組み、実践事例を「まなＤＸ氷見」に掲載しました。ぜひご覧いただき、それぞれの学校において積極的にご活用ください。

＜ＩＣＴを活用した授業づくり研修会の様子＞

ふるさと教育推進委員会

より分かりやすく、より活用しやすいＨＰへ

朝日丘小学校　教頭　西田　由紀夫

本委員会では、氷見市の児童生徒が、ふるさとに学び、心から「ふるさとが好き」と思えるようになってほしいと願い、ＨＰ「みんなで学ぼう　ふるさと氷見」の更新を行いました。10 月に開館した氷見市芸術文化館の掲載、広域圏組織となった氷見消防署の更新、各種画像へのコメント追加や動画の充実、郷土の人物や学校の取組の追加掲載、古いデータの刷新等々、より使い勝手のよい画像・映像資料となるように努めました。

＜氷見市芸術文化館＞

次年度は、「ふるさと氷見」（冊子）の改訂を予定しています。ＨＰと冊子を十分に活用していただき、児童生徒が氷見の素晴らしさを再発見したり、新たな氷見のよさに気付いたりする中で、ふるさとを大切に思う心と、積極的にふるさとに働きかける行動力を育んでほしいと願っています。

氷見市制施行 70 周年記念

ひみっ子の夢と希望　きらめき推進事業　　CHIKO さん講演会　　11 月 15 日

氷見市芸術文化館で、市内の中学校２年生、義務教育学校８年生を対象に、歌手の CHIKO さんの講演会がありました。CHIKO さんの父親はアフリカ・コンゴ民主共和国出身のミュージシャン、母親は魚津市出身の人形作家です。周囲と自分との違いや偏見に悩んでいた CHIKO さんでしたが、母親の支えもあり、自分を好きになる努力をしようと勇気を出して歌手の道に進んだ体験を語りました。

進路を考えるとき、選択肢や可能性を広げていくことで豊かな人生になると、コンゴの国の応援歌を力強く歌いながら、中学生に励ましのエールを送りました。

＜生徒の感想より＞　…僕も自分の嫌なところはたくさんあるけれど、CHIKO さんのように自分を好きになる方法を見付け、可能性を広げて前向きに生きていこう、自分の人生を豊かにしようと思いました。

令和4年度　教育論文･教育実践記録募集の審査結果

今年度の教育論文･教育実践記録の募集に対して、小学校から７編、中学校から４編、義務教育学校から３編、計 14 編の応募がありました。教科における主体的な学びを生む取組やＩＣＴの有効活用、ふるさと教育、健康教育、よりよい集団づくりを目指す取組等々、熱意に満ち溢れた力作ぞろいでした。

それぞれの部で最優秀賞、優秀賞が選出されました。

［表彰式の様子］

〈小学校・義務教育学校（前期課程）の部〉　　※優秀賞・優良賞は学校番号順

賞	学校名	氏　名	研究主題（副題を除く）
最優秀賞	西の杜学園	屋敷　香奈子	思いや願いをよりよく表現し、 学校や地域への愛着を深める子供の育成
優秀賞	宮田小学校	中村　友香	当事者意識をもち、 自ら進んで自他の健康を守ろうとする子供の育成
優秀賞	西の杜学園	山田　風佳	学ぶことの楽しさを実感し、 生活をよりよくしようと工夫する子供の育成を目指して
優良賞	朝日丘小学校	草田　姫香	「また明日来たい」と思える学級を目指して
優良賞	比美乃江小学校	田子　智尋	語彙力を高めて、 自分の思いやよさを伝える力を高める授業の在り方
優良賞	比美乃江小学校	谷内　駿介	自分の意見や考えをもち、 対話を通して合意形成をはかる子供の育成
優良賞	窪小学校	佐伯　　駿	互いのよさを認め合い、考えを深める子供の育成
優良賞	湖南小学校	佐伯　美緒	自ら学び、関わり合う子供の育成
優良賞	十二町小学校	平島　康裕	ひと、もの、ことと関わり、 主体的に課題解決に取り組む子供の育成を目指して

〈中学校・義務教育学校（後期課程）の部〉

賞	学校名	氏　名	研究主題（副題を除く）
最優秀賞	南部中学校	西出　裕太	国語の学習において 主体的・対話的で深い学びのできる生徒の育成
優秀賞	西條中学校	小坪　達也	学ぶ意欲をもって、高め合う生徒の育成
優良賞	北部中学校	石川　智大	数学科の学習への主体性を高めるための授業開発
優良賞	十三中学校	岡本　奈々	根拠を明確に自分の考えをもち、 表現することができる生徒の育成
優良賞	西の杜学園	関口　椎乙	学ぶ楽しさを実感し、意欲的に学習する生徒の育成

［実践発表の様子］

２月 15 日（水）、教育委員各位を迎えて表彰式が行われました。

鎌仲教育長からの授賞の後、最優秀賞受賞者の西の杜学園　屋敷香奈子教諭と、南部中学校　西出裕太教諭から、教育実践についての発表がありました。詳細については当センター発行の「令和４年度教育論文・教育実践記録集」をご覧ください。

新規採用教員　－ １年を振り返って －

分かる授業を目指して

比美乃江小学校　藤井　晶帆

「今日の先生の授業、分かりやすい。」教員になって一番嬉しかった言葉である。教材研究を行い授業に臨むが、発問しても意見が出なかったり、板書がうまくいかなかったりと、悩むことが多かった。そんなとき先輩の先生から「板書の構成を考えながら１時間を組み立ててみてはどうか」とアドバイスをいただいた。そこで、学習課題を基に授業の終末をイメージしながら板書を考えることを繰り返した。すると、児童からいろいろな考えが出るようになり、「分かった！」という声が上がるようになった。

これからも、先輩の先生方からの学びを生かし、児童に寄り添う指導ができる教員を目指していきたい。

相手に伝える

南部中学校　鹿渡　陸斗

手先の感覚を言語化し、分かりやすいように伝えるには、どうしたらよいのだろうか。美術科教師として「相手に伝える」ということを考え続けた１年だった。

先輩方の授業から、導入や発問の工夫や生徒の発言の引き出し方等を学び、生徒が自らの表現を探求できる環境を模索しながら、生徒の「できない」という感覚に寄り添い、どうすれば「できた」という感覚を生徒が得ることができるかを試行錯誤しながら実践してきた。

生徒の発想や着想に驚かされることも多く、私自身にとっても学びが多かった。これからも生徒が主体となって活動に取り組めるよう、日々精進していきたい。

すべてが新鮮な日々

上庄小学校　堀田　知聖

４月からこの氷見の土地で教員人生がスタートした。土地も、学校も、仕事内容も初めて出会うことばかりで、期待と不安が入り交じる日々だった。私が出会った２年生10人はとても元気がよく、毎日が新鮮である。その一方で子供たちとの関わり方、学級経営の仕方等で壁にぶつかることもあった。その都度、先輩の先生方の温かさに支えられ、助けられた。こんなにも素敵な環境で学べることを嬉しく思う。

来年度は、この１年間に学んだことを生かし、教員として、人間としてさらに成長できるように努めたい。そして、子供たちの笑顔を大切にして、共に歩んでいきたい。

１年を振り返って

西條中学校　小林　真子

教師になるという夢が叶い、期待と不安に胸をふくらませる中で、私の教員人生が始まった。初めてのことばかりでうまくいかないのは当然だが、自分の未熟さ、余裕のなさを痛感する毎日だった。

一方で、生徒の元気な姿や思いやりに励まされたり、生徒の成長を実感して喜びを感じたりすることも多かった。つらいこともたくさんあったが、教職のやりがいを実感している。

この１年、多くの経験をさせていただく中で充実した学びを得ることができた。これからも学び続ける姿勢を大切にし、生徒や同僚の先生方、保護者や地域の方等、周りから信頼される教師を目指していきたい。

１年を振り返って

西の杜学園　島田　美邑

初めてで分からないことばかりのなか、先生方から多くのことを学ぶことができた。その中でも特に心に残っているのは、「子供たちの前では女優になりなさい」という言葉だ。ある先生の授業では、九九を覚えるために面白い動きを付けて教えていた。それを見た子供たちも笑いながら真似をして覚えていた。先生が楽しんで活動に取り組むと、子供たちも同じように楽しく取り組んでいる様子が多く見られる。私はまだまだ恥ずかしいと思う時があるが、これからも先生方のように子供たちの前では女優のように堂々と楽しく活動していきたい。